

こねて、ぶつけて、通いあうところ

いちほら よしこ
市原 悟子

「人との関係は苦手。面倒なかかわりはしたくない。人なんて信用できない」。こんな思いを抱くおとなが増えていきます。人との関係の心地よさより、心地悪い体験の方が多かったのでしょうか。しかし子どもには友達への思いやりをもってほしい、イジメられる子、イジめる子にはなっほしくないと望んでいる人が少なくありません。おとなも子どもも人との関係を楽しめるためには、何が必要なのでしょう？

育ちの環境は一人ひとり違うので、「私は、こんな“私”です。あなたは？」と、自己紹介と他人理解が必要です。子どもには言葉での自己紹介は無理で、友達に対しての興味、関心、時には一緒に遊びたいという思いの表現でさえ手を出す形になってしまいます。自分の気持はみんなもわかってきているはずだとの思い込みも激しいので、思いが通らないことに我慢ができず、ケンカになるのはしょっちゅうです。ケンカは互いの違いを表現しているのだと思います。表現しあってお互いの違いを知り、理解ができるのです。でも理解できることばかりではありません。泣く泣く自分の気持に折り合いをつけなければならないこともあります。友達との関係は楽しいことばかりではなく、時には悲しい、悔しい、苦しい、しんどい、傷つくこともあるのです。

気持がピンチの時に慰めてもらい、回復するにも友達の力が必要です。アトム共同保育園では自分の思いを自分の言葉で相手に表現し、理解しあえるような体験をおとなも子どもも大切にしています。